

ビワ生育情報

第 7 報
千葉県農林水産部
令和 4 年 4 月号

4月1日時点での幼果の発育は「楠」は平年並み、「大房」及び「田中」は平年より遅いため、収穫期は平年並みからやや遅いと予想されます。

果実の発育

4月1日現在のビワの果径を表1に示した。横径は「楠」が1.65cm、「大房」及び「田中」は3地区の平均でそれぞれ1.40cm、1.47cmであった。平年と比較すると「楠」は103%、「大房」は88%、「田中」は93%であった。

縦径は「楠」が2.09cm、「大房」、「田中」は3地区の平均でそれぞれ1.78cm、1.90cmであった。平年と比較すると「楠」は104%で、「大房」は90%、「田中」は95%であった。

果形指数は「楠」が0.79、「大房」、「田中」は3地区の平均でそれぞれ0.79、0.77であった。本年の果形指数は3品種とも平年並みである。

果実の発育は、「楠」は平年並み、「大房」及び「田中」は暖地園芸研究所では平年並み、現地圃場(青木、南無谷)では遅く推移している。今後の気象にも影響されるが、収穫期は平年並み～やや遅いと予想される(各品種の平年値は前年の7月号を参照)。

表1 果実の発育 (4月1日の果径)

品種	調査地点	横径 (cm)			縦径 (cm)			果形指数		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
楠		1.65	1.60	2.16	2.09	2.01	2.53	0.79	0.80	0.86
大房	青木	1.32	1.60	1.92	1.63	1.99	2.30	0.81	0.80	0.83
	南無谷	1.40	1.66	1.99	1.78	2.06	2.33	0.78	0.80	0.86
	暖地園研	1.48	1.53	1.98	1.93	1.94	2.38	0.77	0.79	0.83
	平均	1.40	1.58	1.97	1.78	1.98	2.34	0.79	0.80	0.84
田中	青木	1.29	1.59	1.95	1.73	2.00	2.28	0.74	0.79	0.85
	南無谷	1.59	1.60	2.20	1.98	2.07	2.60	0.80	0.77	0.85
	暖地園研	1.54	1.56	1.91	1.98	1.99	2.33	0.78	0.78	0.82
	平均	1.47	1.58	2.02	1.90	2.01	2.40	0.77	0.79	0.84

果形指数：横径／縦径

平年：平成4年～令和3年の30年間の平均

南無谷は平成10年～令和3年の24年間の平均

令和4年3月の気象

令和4年3月の半旬別の気象を表2に示した。平均気温は第2、第5半旬は平年より低く、他は平年より高かった。月平均気温は11.2℃で、平年より1.6℃高く、前年より1.5℃低かった。

最低極温は全ての半旬で0℃以上であり、氷点下日数は0日であった。

降水量は第4半旬は平年並み、他は平年より少なかった。月合計は78mmで平年の45%、前年の44%であった。

日照時間は第1から第3及び第5半旬は平年より多く、他は平年より少なかった。月合計は180時間で平年の108%、前年の109%であった。

表2 令和4年3月の気象(暖地園芸研究所)

半旬	平均気温 (°C)			氷点下日数 (日)			最低極温 (°C)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
1	10.2	8.0	11.1	0	0.6	0	2.8	0.8	1.0
2	7.6	8.9	10.1	0	0.5	0	0.7	1.1	5.7
3	14.7	8.9	11.7	0	0.4	0	5.8	0.8	2.1
4	11.5	10.4	13.8	0	0.1	0	4.2	2.6	6.4
5	7.9	10.0	13.4	0	0.1	0	0.3	2.9	3.0
6	14.7	11.1	15.6	0	0.1	0	9.0	2.8	5.6
平均/計/最小値	11.2	9.6	12.7	0	1.8	0	0.3	-0.7	1.0

半旬	降水量 (mm)			日照時間 (hr)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年
1	5	31	15	35	26	21
2	10	30	12	35	27	14
3	0	20	70	43	28	28
4	21	22	2	22	27	38
5	20.5	37	29	30	27	20
6	21.5	35	50	16	33	45
計	78	174	177	180	167	166

平 年：1991～2020年の30年間の平均

最低極温：各半旬あるいは3月中に記録した最低気温

なお、表の数値は、表示単位未満を四捨五入したため、合計値と内訳の計が一致しない場合があります。

5月の作業

収穫前にモノレールや索道、道路を整備するとともに園内の草を払っておき、収穫道具や出荷用資材を揃えておく。1樹の収穫は2～3回に分けて収穫適期の果実を収穫するが、特に1回目の収穫では未熟果が混入しないように果皮色をよく確認して収穫する。

果樹カメムシ類の予想発生量は多いとされている（令和3年度病虫害発生予報第11号（令和4年3月16日））ため、ビワ園への飛来に注意を要し、薬剤防除に取り組めるように準備を進める。防除に際しては千葉県農作物病虫害雑草防除指針に従う。

台木の養成

ビワの苗木は、生産しているところが少ないので、自家生産に取り組む。収穫した果実から種子を採り、種まきして、台木用の実生苗を確保しておく。「楠」の実生は、は種後の生長が早く、根張りが良いので、台木に適している。接ぎ木を行う場合は2、3年間養成して、幹が直径1.5cm程度の太さになった台木を用いる。実生苗は、降雨によってごま色斑点病が伝搬し枯死することがあるので、雨よけ施設で管理する。

【問合せ先:千葉県農林総合研究センター暖地園芸研究所特産果樹研究室 電話 0470-22-2961】

※果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生育情報」でも御覧いただけます。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>